学校番号	１２０７

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	世界史ＢⅠ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新詳世界史Ｂ　（帝国書院）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の大きな流れを感じる。
・歴史的事象の相互の関連性を考える。
・歴史を背景を理解し、現在の日本や世界の問題について考える視点を持つ。

2　学習の到達目標

・歴史の諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・世界の歴史を理解し、国際化する社会に生きる個人としての知識と主体性を養う。
・現代の諸課題について、歴史的背景と結び付け、その側面を考慮に入れながら、考察することができる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際化する社会に生きる個人として主体的に責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し,その知識を身に付けている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・課題への取組状況	・授業の発言と発表 ・課題の成果 ・定期試験	・授業の発表 ・課題の取組状況と成果 ・プリントのメモ状況	・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	世界史への扉	・自然環境と人類のかかわり ・日本の歴史と世界の歴史のつながり ・日常生活にみる世界の歴史	○	○	○	○	a:それぞれの主題に対し，意欲的に取り組もうとしている。 b:教科書の問いかけに対し，自ら考えつつ，教科書の文章や，グラフ・絵・地図から適切な解答を見つけて発表できる。 c:グラフや絵・地図などから適切な内容を読み取ることができる。 d:それぞれの主題が設定された理由を考え，理解することができる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1学期	1部　諸地域の形成と交流	1章　オリエント世界と地中海世界の形成 2章　サハラ砂漠以南のアフリカ	○	○	○	○	a:オリエント・地中海両世界とそれをまとめあげたヘレニズムおよびローマについて関心をもち，追究している。 b:オリエント世界と地中海世界の風土・社会・政治・文化・宗教について比較し，その共通点と相違点を示すことができる。 c:地図などの各種資料を活用して，各地域における特色と相違点を把握できる。 d:オリエント・地中海両文明とサハラ砂漠以南のアフリカの文明の特色を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1学期	1部　諸地域の形成と交流	3章　南アジア世界の形成	○	○	○	○	a:南アジア世界が多様性に富むことに興味をもち，追究している。 b:南アジア世界の多様性を，民族・風土・宗教などの視点をふまえつつ総合的に考察している。 c:各種資料から諸王朝の変遷や他地域との交流，社会構造を読み取ることができる。 d:南アジア世界の風土・政治・社会・文化について総合的に理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

2学期	1部 諸地域の形成と交流	4章　東南アジア世界の形成	○	○	○	○	a:東南アジアの複雑多様な地域性に関心をもち，追究している。 b:インドや中国の文化的影響を受けて成立した東南アジア世界の独自性について，具体例をあげて考察できている。 c:インド洋・東アジア海域とつながる港市国家成立の背景を，地図などの各種資料から把握できる。 d:東南アジア世界の風土と位置関係から，南アジア世界や東アジア世界とつながり，その影響を受けつつ独自の世界を築いたことを理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2学期	1部 諸地域の形成と交流	5章　東アジア世界のあけぼの	○	○	○	○	a:東アジア世界における，多様な古代文明の発生と，その中での日本の位置づけに関心がもてる。 b:古代文明の成立から変動期における思想・文化について，歴史的背景から考察し，表現できる。 c:南北の農耕地域と周辺地域との結びつきを，本文やコラムから理解できる。 d:中国における統一王朝成立にいたるまでの政治・経済・文化を総合的に理解するとともに，日本をはじめとする周辺とのつながりを理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2学期	1部 諸地域の形成と交流	6章　中央ユーラシア世界の形成と展開	○	○	○	○	a:遊牧民（移動生活）とオアシス民（定住生活）の生活の違いや，両者の共生関係について関心をもち，追究している。 b:騎馬遊牧民がなぜ交易で活躍できたのか，オアシス民との関係を含めて，その理由を具体的に考察し，表現できる。 c:地図を用いて，遊牧民の移動や東西交易に果たした役割を把握できる。 d:ユーラシア大陸各地の古代	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

							帝国と中央ユーラシアの騎馬遊牧民との交流と衝突を把握している。	
2学期	1部 諸地域の形成と交流	7章 東アジア世界の変動と再編	○	○	○	○	a:遊牧民の活動と中華王朝の変遷との関連に関心をもち，追究している。 b:遊牧民の活動と中華王朝の変遷が深く関連していることを理解し，考察できている。 c:地図などの各種資料を活用し，東アジア諸地域の動向を理解できる。 d:魏晋南北朝から宋までの中華王朝と遊牧民の活動を関連づけて理解している。中華王朝と周辺諸国の関係を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
3学期	1部 諸地域の形成と交流	8章 イスラーム世界の形成と拡大	○	○	○	○	a:狭義の宗教には収まらないイスラームの“社会性”に関心をもてる。 b:イスラームが地域・民族をこえて拡大できた理由とその影響について考察し，表現できる。 c:資料・地図などを活用して，イスラームの特色・広がりを考察できる。 d:イスラーム成立の背景と，地域・民族の枠をこえて拡大する理由について，イスラームの普遍性という観点から理解できている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
3学期	1部 諸地域の形成と交流	9章 ヨーロッパ世界の形成	○	○	○	○	a:ゲルマン人とスラヴ人の移動，イスラームの地中海進出，ビザンツ帝国の動向がヨーロッパ世界の形成につながったことに関心をもてる。 b:ヨーロッパにおける地域差を比較し，その共通点と相違点を考察できる。 c:地図などの各種資料を活用し，ヨーロッパ世界の形成と変容のようすを把握できる。 d:ヨーロッパ社会の形成を封	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

							建社会の成立と変容，教皇権と皇帝権や王権との対決などの観点から総合的にとらえることができている。	
3学期	1部 諸地域の形成と交流	10章 ユーラシア大帝国の出現	○	○	○	○	a:ユーラシア大陸の大部分を支配したモンゴル帝国の成長・発展の過程について関心をもち，追究している。 b:モンゴル帝国と交易の活性化の関係について，またモンゴルが南進に手間どった理由について考察し，表現できる。 c:地図を用いて，モンゴルの活動によってユーラシア大陸の内陸交易と海上交易が一体化したことを指摘できる。 d:モンゴルによりユーラシア大陸が一体化したことで，ユーラシア規模で人の交流やものの流通が起こったこと，および14世紀の危機を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。